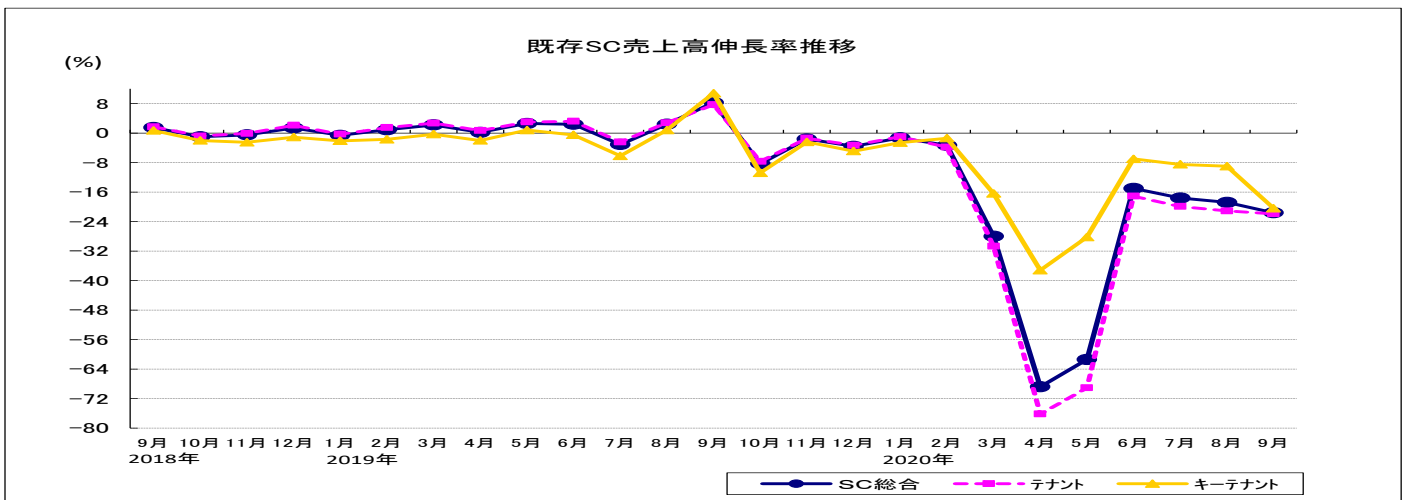


報道関係各位

SC販売統計調査報告2020年9月 既存SC前年同月比：▲21.6%
消費増税の反動あるも、中心地域のテナントで回復みられる

< 2020年9月度・全体概況 >

- 9月度の既存SC売上高(総合)は前年同月比▲21.6%となった。新型コロナウイルスの影響に加え、前年が消費増税前の駆け込み需要で+8.3%と大幅なプラスだった反動がみられた。テナントは前年同月比▲21.9%となったが、前月と比較すると▲0.8ポイントと微減だった。GoToトラベルの対象に10/1から東京発着が追加されることが発表(9/16)されたり、イベント人数制限の緩和(9/19)に伴い映画館では全座席の販売を再開するなど自粛緩和の機運も高まり19日からの4連休で人出が増加したことや、下旬にかけて気温が低下したことで秋物商品にも動きがみられ、中心地域に立地するSCでは回復の傾向がみられた。一方、キーテナントは前年同月比▲20.4%となり前月から▲11.4ポイントと前年好調だった化粧品や貴金属等の高額商品を取り扱う百貨店や家庭用品・日用品の買い溜めがみられたGMSの反動により大きく落ち込んだ。
- 立地別・構成別をみると、中心地域・大都市は前年同月比(総合)で▲33.7%と全立地の中で最大のマイナスとなったが、自粛緩和の流れを受けて回復の傾向もみられた。当該地域のテナントは前年同月比▲32.0%で前月と比較して+1.9ポイントと全立地・構成のなかで唯一改善した。また、キーテナントは消費増税の反動が大きく前年同月比▲44.5%で前月より▲7.4ポイント悪化したものの、中心地域・中都市の前月比▲13.1ポイント、周辺地域の前月比▲10.8ポイントと比較して下げ幅は小さかった。
- 立地別・地域別をみると、中心地域全体では前年同月比▲30.4%と前月から▲0.4ポイントと僅かに悪化したものの、全9地域のうち、北海道、関東、中国の3地域を除く6地域で前月を上回り全国的に回復の兆しがみられた。なかでも九州・沖縄は台風の接近で一部のSCが臨時休館となり前年同月比▲32.5%となったが、前月との比較では、4連休に実施した販促イベントに気温の低下が重なり秋物商品に動きがみられ、前月大幅に落ち込んだ福岡市内のSCを中心に改善がみられ前月比+9.1ポイントと全9地域の中心地域なかで最も改善した。
- 都市規模別・地域別をみると、新型コロナウイルス感染者数拡大を受けて前月大幅に落ち込んだ福岡市と名古屋市は前年同月比でそれぞれ▲31.6%、▲29.7%となったものの、感染者数の減少が消費マインドの改善に繋がり前月比(総合)では、それぞれ+9.5ポイント、+7.5ポイントと他地域・都市と比較して大幅な改善がみられた。
- 業種別の動向を見ると、イベントの人数制限緩和に伴い販売席数を拡大したシネマが回復傾向をみせた他、お彼岸が4連休だったこともあり生花に動きがみられた。一方で、貴金属等の高額商品や化粧品、コンタクトレンズ等、前年に駆け込み需要がみられた商品では反動が大きかった。



以上

この件に関するお問い合わせは 情報企画部: 金田・菰田・高田
TEL: 03-5615-8524

※お手数をおかけ致しますが、掲載紙・誌をお送りくださいますようお願い申し上げます。掲載部分をファクシミリにてお送りいただいても結構です。



一般社団法人 日本ショッピングセンター協会

広報担当: 高田・村松・瀧澤・浅田
Tel. 03-5615-8524 / Fax 03-5615-8539
Mail. pr@jcsc.or.jp